

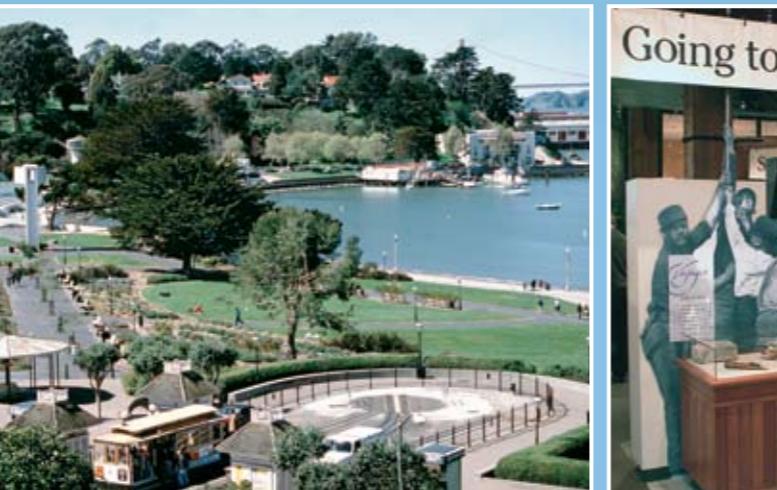
San Francisco Maritime

米国海事省
国立公園局
カリフォルニア州
国立歴史公園



ハイド・ストリート・ピアに停泊した全装備の帆船、バルクルーサ号。ミュニシパル・ピア(市の埠頭)から見たアクアティック・パーク・ラグーン

PHOTOGRAPHS NPS / TIM CAMPBELL AND STEVE DANFORD

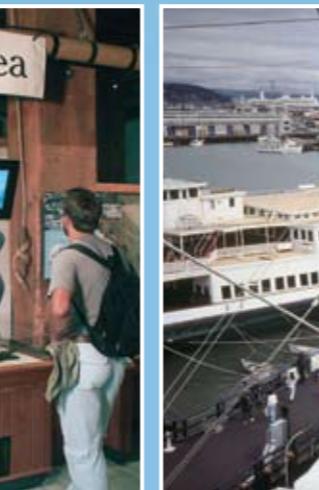


アクアティック・パーク歴史地区には、散歩道、ガーデン、ケーブルカー・ターンアラウンド、1939年竣工の「ストリームライン・モダン」スタイルのバスハウス・ビルがある。

サンフランシスコ国立海洋歴史パークでは、サンフランシスコの航海に関連する過去を目で見て、耳で聞いて、肌で感じることができます。そして海で生活をしていた人たちがどのように暮らしていたかを学ぶことができます。南米のケープホーンを17回も回った横帆艤装船、バルクルーサ号の木造の甲板から、何ヵ月もの航海で船員が待遇した窮屈な船室に身をかがめて入ってみてください。沿岸スクーナー船、C.A.セイヤー号のカーブした船倉を歩いてみると、洗いたての魚が塩と階層になつて天井まで積み上げられています。

ハイド・ストリート・ピアに沿って、パークのスタッフとボランティアが、ビザーセンターでは、展示や体験活動を通してゴールドラッシュ、難破船、航海中の通信などについて学ぶことができます。

ハイド・ストリート・ピアに沿って、パークのスタッフとボランティアが、



ビザーセンターの展示や物品は西海岸の船乗りについて物語る。



ハイド・ストリート・ピアに停泊した歴史的船舶。左から反時計回りにユリーカ号、バルクルーサ号、エップルトン・ホール号、C.A.セイヤー号。



ハイド・ストリート・ピアで、バルクルーサ号、その他の船舶に乗船して、船乗りの生活を体験。



歴史的エンジン・プレート。セントニアル号の修復された船首像。



ハイド・ストリート・ピアに停泊した全装備の帆船、バルクルーサ号。ミュニシパル・ピア(市の埠頭)から見たアクアティック・パーク・ラグーン

PHOTOGRAPHS NPS / TIM CAMPBELL AND STEVE DANFORD

ロープの修理、金具のニス塗装、原動力である蒸気エンジンの手入れを行っています。パークレンジャーはさまざまなプログラムを実施しており、バルクルーサ号のマストを支えるリギングの説明をするため高い場所まで登っていくことさえあります。また、「エイジ・オブ・セイル」環境リビング・プログラムでは、歴史的船舶に児童を宿泊させています。小型ボートの作業場では、職人らが蒸気で柔らかくした厚板を成形したり曲げたりして、歴史的船舶の修理やレプリカ制作に携わります。

海洋の歴史をさらに詳しく知りたい方は、ランドマーク・ビルディングEを訪れてみてください。物品、書類、船舶の設計図、写真、映像、書籍、定期刊行物、口述による歴史などを視聴できます。

サンフランシスコと海
米国先住民がサンフランシスコ湾でカヌーを使った生活を送っているのと同じ頃、ヨーロッパの探検家たちは海岸線の地図を作成していました。1776年、スペイン人が現在のサンフランシスコにあたる場所に定住しました。ほどなくして、アザラシやラッコの毛皮を求めて多くの船がやって来ることになりました。1820年代には、捕鯨者が来たほか、ボストンの商船がカリフォルニア・カウハイドの取引を始めました。

来る人もいましたが、ほとんどの人は、何とか水上に浮かぶという程度のもので航海しました。浅瀬まで来て、自らの船舶を置き捨てていくこともよくありました(そのような

船の残骸は現在のサンフランシスコ金融街の地下に埋まっています)。「船と桟橋と潮汐の街である」とは、チリのジャーナリスト、ベンジャミン・ビケーニヤが1852年に書いた言葉です。「浜から離れて停泊した手すり付きの大型船は、住居、店舗、レストランの役目をなし」と語っています。

ゴールドラッシュは、世界中から商人、労働者、職人をもらいました。1870年代までは、バルクルーサ号のようなヨーロッパの大型帆船

が、急成長するカリフォルニアの穀物取引に引き付けられてやってきました。

また、C.A.セイヤー号のような

スクーナーの船団が、ワシントン州のピュージェット湾からダグラスファー(アメリカ松)を積んで到着しました。

また、アルマ号のように底が

平らなスカウ・スクーナー船は、農耕具のすき、種子、ミシン、布地、石炭、石油などを積み、カリフォルニアのセントラル・バレーまで川を上っていました。

1914年にパナマ運河が開通すると、アメリカの両海岸の間を行き来する蒸気船の交通量が爆発的に増加しました。

また、第一次大戦と第二次大戦では、軍事の需要を満たすため西海岸に造船所が設立されました。

ハイド・ストリート・ピアの歴史的船舶

ハイド・ストリート・ピア（ハイド通り埠頭）は、1922年、サンフランシスコとサウサリート間の行き来する自動車フェリーのために建造されたものです。フェリーの路線は、ゴールデンゲート・ブリッジが1937年に開通するまでは、高速道路101号線の一部と考えられていました。

今日、この埠頭、そしてそこに停泊する数々の歴史的船舶は、一般公開されています。アルマ号、バルクルーサ号、ユリーカ号、ハーキュリーズ号、C.A.セイヤー号の5隻は米国歴史建造物の指定を受けています。また、埠頭にはさまざまな海洋関係の建造物と展示があります。ごゆっくりご見学ください。



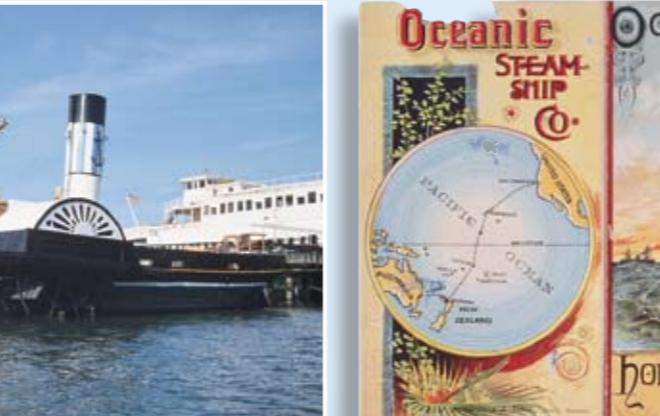
アルマ号：スカウ・スクーナー；59フィート。1891年、サンフランシスコで建造。一にて建造。



バルクルーサ号：横帆艤装船；256フィート。1886年、スコットランドのグラスゴーにて建造。



C.A.セイヤー号：3本マストのスクーナー；156フィート。1895年、カリフォルニア州フェアヘーベンにて建造。



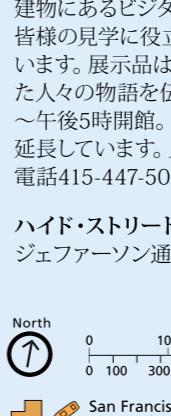
エップレトン・ホール号：鋼鉄製タグボート；100.5フィート。1914年、英國、サウスシールドにて建造。



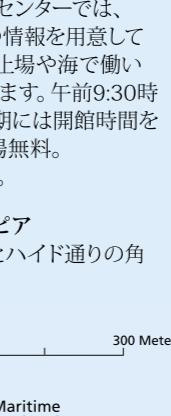
ユリーカ号：外輪フェリー；299.5フィート。当初1890年にカリフォルニア州ティップルコンにてユキア号という名称で建造。1922年、ユリーカ号として改裝。



ハーキュリーズ号：蒸気動力のタグボート；139フィート。1907年、ニュージャージー州カムデンにて建造。

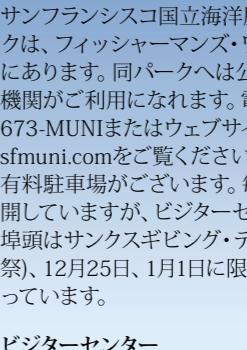


ハイド・ストリート・ピアの東側に停泊した小型の船。



バルクルーサ号に乗船した児童たち。パークレンジャーがあらゆる年齢のビィジターを対象に解説プログラムを実施。

図書館とコレクション



左上：サケを捕獲するためにスター・オブ・アラスカ号に乗船した漁師たち、1920年代。右上：パーク内のリサーチ図書館。下：蒸気船のパンフレット、1880年代。

見学のプランニング

サンフランシスコ国立海洋歴史パークは、フィッシャーマンズ・ワーフの西にあります。同パークへは公共交通機関をご利用になります。電話415-673-MUNIまたはウェブサイトwww.sfmuni.comをご覧ください。近辺に有料駐車場がございます。毎日一般公開していますが、ビィジターセンターと埠頭はサンクスギビング・デー（感謝祭）、12月25日、1月1日に限り休業となっています。

アクアティック・パーク・バスハウス・ビル

数年にわたる修復工事のため閉館中。

アクアティック・パーク歴史建造物地区

ガーデンや波止場に沿って、またはミニシバル・ピアに向かって歩いてみてください。

ケーブルカーがターンテーブルで回転する様子や都会のビーチなどを見て楽しむことができます。

サンフランシスコ湾の船や鳥に目を向けてみましょう。ラグーンで泳いでいる人も見ることができます。

USSパンパニート

45番埠頭に停泊中。サンフランシスコ国立海洋パーク協会が修復し、メンテナンスや管理を担当するこの第二次大戦の潜水艦は、太平洋で長距離巡航を行いました。毎日公開中。有料。

詳細については下記まで

San Francisco Maritime National Historical Park

Building E, Fort Mason Center

San Francisco, CA 94123

415-447-5000

www.nps.gov/safr



ビィジターセンターの展示：右・ファラロン諸島の灯台、および下・細工を施したクジラの歯。



Printed Spring 2008.
Printed on recycled paper. Japanese version.



San Francisco Maritime National Historical Park

